

プログラム

開会の挨拶

12:40-12:45

独立行政法人国立病院機構 秋山 聖子 先生
仙台医療センター

教育講演 1

12:45-13:10

『がん遺伝子パネル検査の連携』

《座長》山形県立中央病院 須藤 剛 先生
東北大学病院 腫瘍内科 小峰 啓吾 先生
助教

教育講演 2

13:10-13:45

『宮城がん患者アンケートから ピアサポート活動について』

《座長》宮城大学 菅原 よしえ 先生
がん患者会・サロン 吉田久美子 先生
ネットワークみやぎ 代表

教育講演 3

13:45-14:20

『電子カルテ情報の共有による薬薬連携の 取り組み ―抗がん剤治療における連携―』

《座長》岩手県立大船渡病院 小笠原 信敬 先生
独立行政法人国立病院機構 井上 裕貴 先生
名古屋医療センター 薬剤部 調剤主任

休憩

話 題

14:30-15:00

『がん薬物療法の最新情報』

《座長》秋田赤十字病院 宮澤 秀彰 先生
東北大学病院 がんセンター 大内 康太 先生
助教

特別講演

15:00-15:55

『がん情報の活用について ～患者が最良の 判断をするために医療者が出来ること～』

《座長》独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 秋山 聖子 先生
国立がん研究センター 若尾 文彦 先生
がん対策情報センター センター長

閉会の挨拶

15:55-16:00

岩手医科大学 伊藤 薫樹 先生

当日は、会費(医師¥1,000、メディカルスタッフ¥500)を集めさせていただきます。

※本セミナーは日本医師会生涯教育講座3単位の認定を受けております。

※本セミナーは外来がん治療認定薬剤師認定のための講習会(研修会)として2単位の認定を受けております。

※本セミナーへの参加は認定看護師認定更新審査の研修実績及び研究業績等として申告できます。

共 催

NPO 法人東北臨床腫瘍研究会 / 大鵬薬品工業株式会社

後 援

宮城県医師会 / 東北大学医師会 / 東北病院薬剤師会 / 宮城県看護協会 /
東北次世代がんプロ養成プラン

事務局

【お問い合わせ】石川 徹 / 東北大学加齢医学研究所内 TEL・FAX : 022-717-8599

仙台城址 (写真提供: 宮城県観光課)

T-CORE

The 29th Seminar of Tohoku Clinical Oncology Research and Education Society

東北臨床腫瘍セミナー

第29回

2019.6.29(sat)

12:40 ~ 16:00

東北大学マルチメディア
教育研究棟 2階
「マルチメディアホール」
仙台市青葉区川内41
TEL : 022-795-7680

特別講演

『 がん情報の活用について～患者が最良の判断をするために医療者が出来ること～ 』

若尾 文彦 先生 国立がん研究センター がん対策情報センター センター長

1986 年 3 月	横浜市立大学医学部卒業
1986 年 6 月	横浜市立大学医学部附属病院 臨床研修医
1988 年	国立がんセンター病院 放射線診断部 レジデント
1991 年	国立がんセンター病院 放射線診断部 チーフレジデント
1992 年	国立がんセンター中央病院 放射線診断部 医員
1998 年	国立がんセンター中央病院 放射線診断部 医長
2006 年	国立がんセンターがん対策情報センター センター長補佐併任 情報提供・診療支援グループ長併任
2010 年	独立行政法人化に伴い、国立がん研究センターに名称変更
2010 年 12 月 1 日	国立がん研究センターがん対策情報センター 副センター長
2011 年 4 月 1 日	国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供研究部長
2012 年 3 月 1 日	国立がん研究センターがん対策情報センター センター長
2015 年 4 月 1 日	国立がん研究センターがん対策情報センター たばこ政策支援部長代行

<講演内容>

がんは、1981 年以降日本人の死因の第一位となり、その後も増え続け、死亡者の 3 分の 1 はがんでなくなり、二人にひとり生涯にがんを罹患するという国民にとって重大な疾患となっている。そのような中、がん患者の 6 割以上は、がんに関する情報をインターネットで調べているが、わが国のインターネットには、大量のがん情報が溢れ、その中には、科学的根拠に基づかないデマや民間療法の広告などの不適切な情報を多く含まれる玉石混淆の状態で、さらに、検索サイトでは、強力な SEO 対策を施した商用目的の情報や、有料の広告が優先して表示されている。ネット上の医療情報は巧妙に作成されており、専門の医学的知識が十分ではない患者・家族、さらには、専門外の医療者にとっても、情報の正否の判断が難しいものも少なくない。そのため、間違った情報を信じ、標準治療を拒み、自由診療などの有効性が明らかではないがん治療に誘導されて、治療の機会を逸してしまうことも起きている。そして、医療者が単純に正しい情報を説明するだけでは、患者はかえって反発してしまい、軌道修正が難しいことも現実であるとする。

この状況を打破し、患者が最良の判断をサポートするためには、医療者が、正しい情報の見分け方、web サイトの判定ポイント、信頼できる情報リソースなどの情報リテラシーと、雑音として受け流されるのではなく、患者の気持ちに響き、行動変容に繋げることができるコミュニケーション技術を身につけ、患者の状況をアセスメントした上で、患者の気持ちに寄り添った、患者のヘルスリテラシーに合わせたアプローチをしていくことが大切であるとする。

マルチメディアホール アクセス MAP

地下鉄東西線「川内駅」南 2 番出口

※会場の駐車場はご利用いただけませんので、公共交通機関をご利用ください。

